ELZKV—S

二〇二五年度入学試験問題

国語

（六〇分）

注意事項

一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。

二、この問題冊子は24ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

解答用紙（マークシート）の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。

三、解答用紙（マークシート）は折り曲げたり、汚したりしないでください。

四、解答は、すべて解答用紙（マークシート）に記入し、解答用紙（マークシート）の枠外には、なにも書かないでください。

五、**解答番号は、1～40まであります。**

解答用紙（マークシート）には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。

六、マークは必ずＨＢの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。

七、監督者の指示に従って、解答用紙（マークシート）に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。

八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

Ｆは、学生時代に世話になった教授の出版記念会に出席することになった。その会場は、かつてＦが妻のＳ子と結婚式を挙げた場所であった。以下は、記念会が終了し、一同が教授を見送る場面である。次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

教授を囲んで立っていた一団が口々に挨拶を述べたてたために、玄関の前はぽっと火が燃えあがるように賑やかになった。夫人に付き添われた教授はステッキを持った手を上下に動かして見送りの声に答えると、小刻みな摺り足で車に歩み寄った。背を屈めてドアの内にはいっていく教授が、苦心して箱の中に自らを押し込もうとしているかのようにＦの眼に映った。

赤いテールランプが植込みの樹木の陰に消えるのを見定めてから、Ｆは玄関前の人だかりを離れて霧雨の立ちこめる闇に足を踏み出した。鞄に折り畳みの傘がはいっているのを知っていたが、彼はそれを取り出そうとはしなかった。

シャッターをおろしたビルや明りを消した商店の並ぶがらんとした街路を国電(注1)の駅に向けて歩きながら、Ｆはしきりに<u>a今出て来たばかりの同窓会館</u>のことを思い浮かべていた。正面玄関とそれに続く建物はかつてのままの佇いを残していたが、Ｆたちが結婚式を挙げたホールのある左翼の古風な平家建の洋館はもうどこにも見当らなかった。そのあたりにはコンクリート造り五階建の灰色の建造物が無表情な壁をそそり立たせている。建物が大きくなったせいか、芝生のスロープのある庭園までが以前のゆったりとした拡がりを失っていた。

入口だけは昔のままでありながら、奥へ進むとなにかに拒まれたように全く別の空間にはいりこんでしまう同窓会館の変貌にＦは戸惑った。騙された時に似た気分を味わわされて腹立たしくさえあった。考えてみれば、しかし彼がこの会館を訪れたのは結婚式以来初めてのことであったかもしれない。玄関先での教授との立話が蘇り、Ｆは指折り数える気持ちで流れ過ぎた時間を顧みた。妻のＳ子が純白の衣裳で庭の芝生を歩いた日から、まぎれもなく二十三年に余る月日が経っていた。

鎖をめぐらした人影のないガソリンスタンドの角を曲ると、国電のガードが遠くにぼんやりと煙って見えた。濡れて光り出した舗道を、タクシーがタイヤのしめやかな音をたてて走り去る。青白い街路燈が微小な雨粒の中に点々と並び、それに照らし出された街が足許から当もなく漂流し始めるのをＦは感じた。俺は今どこを歩いているのだろう、と彼は自問した。国電の駅へ向けて足を運んでいるのは明らかでありながら、ガードをくぐりぬけても駅にはいらず、どこまでもどこまでもこの道を辿って行こうとする自分の生れているのをもＦは意識せぬわけにはいかなかった。

あの石をまだＳ子に贈っていないな――。Ｆは突然そう思った。<u>b鋭く光る透き徹った小さな石が雨の中を歩き続ける彼の眼の裏を刺した</u>。Ｓ子がその石について触れなくなってから既にかなりの時が過ぎていた。いつの間にか、石は彼女の身体の奥深くに沈みこんで

しまったかのようであった。

Ｓ子と婚約した時、Ｆは誕生石の指環を彼女に贈りたいと願った。日本髪を結ったり打掛けを羽織ったりといった豪華な婚礼衣裳を着けることなど考えられず、会費制の結婚式のまだ盛んな時代ではあったが、Ｆの周囲でも誕生石のはいった婚約指環を贈る習慣は、どこか洒落たならわしとして多くの者に受け入れられていた。その頃、学生時代からの数少ない女友達の一人が、婚約したのだといって細い指に遠慮がちにはめていた指環の石の青い輝きがひどく新鮮な感触でＦの眼を打った。指環とともに彼女が今迄とは別の世界に去って行くのがよくわかった。結婚とはこういうことなのか、と彼は思ったものだった。

Ｆは都心のデパートの貴金属売場や宝石店のショウケースをＳ子と肩を並べて幾度も覗きこんだ。しかし、九月生れのその女友達と違って、四月に生れたＳ子の誕生石はあまりに高価な石だった。辛うじて手の届きそうな金額のものは、あまりに石が小さくてどこにあるのか見えないほどであった。

「いつか、貴方がお金持ちになったら買ってもらうわ。」

なんとかして手頃の石を捜し出そうと焦る彼を慰める口振りでＳ子は笑いながら言った。今は代りのもので我慢してもらうけれど、将来必ず誕生石のはいった指環を贈るからな、とＦは怒ったような口調で約束した。

結局、出来るだけ安く指環を手に入れるために、Ｆの母親の知人の営んでいる町中の宝石店で買物をすることになった。値段の交渉に一役買おうと乗り出した母親と三人で店を訪れ、ＦはＳ子のために可憐な赤い石のはいった指環を買い求めた。

頭痛持ちであったＳ子は、その日ひどい痛みを堪えていた。帰途の駅のプラットフォームで電車を待つうちに気分が悪くなり、Ｆの母親に気づかれぬように柱の陰にしゃがんでＳ子は少し吐いた。変に思われたらいやだわ、と彼女はしきりに母親の眼を気にしたが、彼にはそれより、Ｓ子の身体の不調が誕生石を買えなかったことと関係あるように思われてならなかった。彼女がそれを意識したからというのではなく、むしろ無意識であるからこそ、その小さな出来事が二人の将来になにか深い意味をもつのではないか、と憂えた。誕生石を身につけるのは、それが災厄を払う護符としての働きを備えているためだ、などという他愛のない言い伝えまでが気にかかった。

結婚後のＦとＳ子の生活の中になんの災いもなかったわけではない。やがて生れた子供は二度の大病に見舞われたし、同じ家に住んでいたＦの両親、特に母親との隠微な関係に疲れ果ててＳ子は子供を連れて幾度か実家に帰らねばならなかった。

「おばあちゃんはなにもおっしゃらないわよ。だけど私がちょっと綺麗にして出かけようとするとね、黙って私の身なりを上から下までじろっと見るのよ。その時の気分、貴方にわかる。わからないわよね。」

その場逃れの言葉しか返しようのないFとの間で、いつも問題はくすぶり、済し崩しに日だけが過ぎていく。もしもFにもう少しの決断力があったなら実現し得たかもしれない両親との別居生活も、母親が寝込んでしまってからでは手遅れとしかいいようがなかった。

はっきりこれが災厄とは呼びにくいほどの瑣細で執拗なトラブルの限りない積み重ねを、誕生石を身につけていないための不幸などとFが考えられなくなっていたのは当然の成り行きであった。

結婚後時を経て子供が小学校に入学し、ほっと育児の手間が省けるようになった頃、たまに見かける広告や友達から聴いて来た話などを種にして、h大変よ、安く買える石があるんですって、と冗談半分にS子は叫んでみたりする一時期があった。婚約指環を買った折のiほとぼりがさめ、一方ではFが〈お金持ち〉になっていないのが明らかであったため、かえってS子は気軽に石のことを口に出来たのかもしれない。買えよ、思いきって買ってしまえよ、とFも実現する筈のない気楽さから妻に答えた。白く鋭く光る小さな石は、そんな折にだけ二人の上に過去を呼びさます束の間の甘い光芒(注2)を放って飛び交った。

jS石の話題がF夫妻の生活から姿を消したのは、かえってそれを手に入れるのが必ずしも不可能とはいえないほどの経済状態になってからだった。S子がかつて言ったような〈お金持ち〉になったわけでは決してなかったが、同じ企業に長々と勤めていれば、Fはそれなりの給料を手にするようにはなっていた。そして昔のどこか負い目のつきまとう借金というイメージからはかけ離れた、ローンと呼ばれる分割払い制度の普及も、石をとりまく事態をかえていた。しかしその頃から、石はS子の身体の奥の暗がりに次第に沈みこんでいったらしかった。

いつの間にか、俺達のあいだであの幻の石は厄除けではなくむしろ危険な物質に変身していたのかも知れないな、とFは思った。石について語ることが結婚当時の二人の夢を呼び起し、石の放つ光がおよそ夢とは縁遠い病人の世話に明け暮れるS子の日々を照らし出してしまうかもしれないからであった。

傘をさしたり、服の襟を立てたりしたまわりの人々が道を渡りはじめたので、信号が青に変ったのにFは気がついた。知らぬうちにガードが眼の前に迫り、左手に生気のない光の澱んだ駅の入口が見える。まばらな通行人の動きに左右から誘われるようにして彼も道路を横断した。ガード下で新聞売りの台を片づけ終った初老の女が、罐詰の空罐から煙草の吸殻を声を出して一本一本数えながら道端の溝に捨てているのをFは足を停めてしばらくみつめた。彼女は医者に煙草を制限されているのに違いない。空になった罐を女が逆さまにして振るのまで確かめてから、彼は駅の構内にはいって行った。雨のためばかりではなく、久々に同窓会館を訪れたためにどこか潤んだような深い奥行きの生れてしまった身の底で、kあの石をS子に贈ろう、とその時Fは心に決めた。先月の末に、給料から天引きされて積み上げている社内預金が二百万円を越えたという通知を受取っていたことが彼を大胆にした。Fの決断を A かのよう

に、差し出した切符に改札口の若い駅員は歯切れの良い音をたてて鋏(はさ)みを入れた。

（黒井千次(くろいせんじ)「石の話」による）

（注）1　国電……日本国有鉄道の電車。
2　光芒……すじのように見える光。

問一　傍線部a「今出て来たばかりの同窓会館」とあるが、Fにとってどのような場所であったか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 1 。

1　結婚式場としての華やかさが失われ、来るものを拒むような無機質さを備えた場所。
2　思い出の地でありながらも、当時の記憶が薄れ、かつてほどの親しみを持てない場所。
3　昔とは大きく様子が変わってしまい、今となってはなじみを感じられない場所。
4　かつての面影は入口にしか残っておらず、中に入ることがためらわれるような場所。

問二　傍線部b「鋭く光る透き徹った小さな石が雨の中を歩き続ける彼の眼の裏を刺した」とあるが、このときのFの心情として正しいものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 2 。

1　S子に石を贈らなければならないという焦り。
2　石のことを忘れていた自分に対する憤り。
3　S子は石のことを覚えているのかという疑念。
4　S子に石を贈っていないことに対する未練。

問三　傍線部c「こういうこと」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は $\boxed{3}$ 。

1　これまでとは人間関係を変えること。
2　生活が新たな段階へと移行すること。
3　これまでとは別の価値観を持つこと。
4　親しい相手に孤独を感じさせること。

問四　傍線部d「怒ったような口調で約束した」とあるが、このときのFの様子として正しいものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は $\boxed{4}$ 。

1　誕生石のはいった指環を贈るという希望がかなわなかったことでS子に気遣われることを決まり悪く感じながらも、なんとか面目を保とうとしている。
2　S子に安価な石を贈ることしかできない自分がふがいなく、いずれは誕生石のはいった指環を贈ると約束することでS子に許しを請おうとしている。
3　手頃な石しか買うことのできない自分を軽く見ているS子を苦々しく思い、そのうち誕生石のはいった指環を手に入れて見返してやろうと考えている。
4　自分の手に届く金額の指環はそれ相応に見劣りがすることにいらだち、誕生石のはいった指環を買えるほどの給料を得なければならないと決意している。

問五 傍線部e・g・iの語句の本文中の意味はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 5 ～ 7 。

e「一役買おう」

1 話し合いの場に同席しよう
2 ある役目を進んで引き受けよう
3 強気な態度で取引しよう
4 役に立つ知恵を貸そう

g「他愛のない」

1 とりとめのない
2 根拠のない
3 突拍子のない
4 面白みのない

i「ほとぼり」

1 強い執着心
2 感情や興奮のなごり
3 意見の食い違い
4 一時的な興味や関心

問六 傍線部f「頭痛持ちであったS子は、その日ひどい痛みを堪えていた」とあるが、S子の様子についてFはどのように感じているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8 。

1 護符の働きを持つ誕生石を買ってやれなかったことで、S子に災厄が降りかかったのではないかと気の毒に感じている。
2 誕生石を買えない自分の未熟さが生んだ災いであり、今後の生活にも影を落とすのではないかと恐れを感じている。
3 S子が誕生石を買ってもらえなかったことを気にするあまり、不調をきたしたのではないかと申し訳なく感じている。
4 誕生石を買えなかったことが引き起こした異変であり、二人の将来を暗示しているのではないかと不安に感じている。

問七　傍線部h「大変よ、安く買える石があるんですって」とあるが、このときのS子の心情として正しいものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 9 。

1　あわよくばFに石を買ってもらおうとたくらんでいる。
2　Fがお金持ちになっていないことをからかっている。
3　昔のFとのやりとりを思い出して楽しんでいる。
4　石を買えるほどの余裕がない生活を自嘲している。

問八　傍線部j「石の話題がF夫妻の生活から姿を消した」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10 。

1　石のことを話題にしていた結婚当初は二人も心にゆとりがあったが、現在はS子が母親の世話に付ききりの日々で、石のことを考える余裕もなくなっていたから。
2　石のことを話題に出すと、未来を夢見て幸せだった結婚当時の記憶が呼び覚まされ、S子が母親の世話にかかりきりの現在の生活との落差を思わずにはいられないから。
3　結婚当初の二人にとって、石は手が届かないがゆえに夢のあるものであったが、金銭的に余裕のある今ではとりたてて魅力的なものには映らなくなっていたから。
4　石のことを話題に出すことで、母親がまだ元気に生活していた頃の思い出までが蘇り、現在の母親の病に伏せる弱った姿を見ることがやるせなくなるから。

問九 傍線部k「あの石をS子に贈ろう、とその時Fは心に決めた」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 11 。

1 S子との間に起きた様々な出来事に思いをはせるうちに、S子に相当の苦労をかけてきたことに思い至り、誕生石を買うことでいたわってやりたいと考えたから。

2 久々に同窓会館を訪れたことでS子への愛情が蘇ったことに、社内預金が十分に積み上がったという事実が加わり、ようやく昔の約束を果たすための条件が整ったと確信したから。

3 冷たい雨の降り注ぐ同窓会館の様子がS子との冷めた関係を象徴しているように感じ、誕生石を贈ることで二人の関係を再び立て直していきたいと考えたから。

4 久しぶりに同窓会館を訪れてS子との様々な思い出が蘇り感傷に浸るなかで、資金のあてがあることに後押しされ、これまでとは違う心持ちになったから。

問一〇 空欄 A に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 12 。

1 確約する
2 いぶかる
3 承認する
4 とがめる

問題二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人は森を壊し都市を作ってきた。 A 一方で都市の中で自然再生を行ってきた文化がある。それが庭である。庭とは人間と自然との関係の文化ということができると思う。庭にとって主題となる自然が、大きく変化している今日、作庭する人間として、限られた空間としての庭を超え、人間と自然の関係の文化としての「庭」とは何かを俯瞰（ふかん）した視点で見渡してみることにより、「庭」が今日の人間にとってどのような意味を持つのか、そして改めて「庭」とは何かを考えたいと思う。（Ⅰ）

庭のデザインは、a整形式と自然風景式とに大きく分けられる。自然観の違いにより自然へのかかわり方の違いが生まれたことによる。自然より人間を上ととらえる西欧においては、整形式が長く歴史的発展を遂げてきた。その様式の熟成した一例であるベルサイユ宮殿の庭は、中心の軸線が強調され、そのまわりは左右対称の空間配置となり、刺繍（ししゅう）花壇と呼ばれる植物までが文様のように整えられる自然の楽しみ方であった。ところがいよいよ農村的自然景観すら少なくなってきた産業革命の少し前、イギリスでb ボッカ的農村の景をデザインとして描く自然風景式の庭園様式が生まれる。これがアメリカにわたり、公共空間デザイン手法となったのがランドスケープ（注1）デザインである。一方、中国、朝鮮半島、日本では、自然が人間よりも上のものととらえる自然観のもと、自然風景式庭園という様式を成立させ発展してきた。この中国、朝鮮半島、日本に加えてイギリスの自然風景式もそれぞれに異なるのであるが、その違いを掘り下げることはまたの機会にしたい。（Ⅱ）

それでは我が国の自然風景式という様式に属する日本の庭と呼ぶものの歴史はどのように生まれ展開してきたのであろうか。（Ⅲ）

庭は、仏教の伝来とともに始まるとされるが、その成立の背景には「庭」と呼ばれる空間へと至る前の、自然と人間の関係の場・空間がある。人間は自然の一員であることと、自然からあまりにもかけ離れた存在であることの両面性を持つ。その両面性のc相克を解消するために人は自然との関係の場を様々に持ってきた。川勝平太（かわかつへいた）（注2）にフランスの地理学者オギュスタン・ベルク（注3）を読み解こうとした、「ベルク風土学とは何か」という書がある。その中で「近代西欧の知の範型」の源流は「われ思う、ゆえに我あり」にあると、デカルト（注4）のテーゼを引いている。近代西欧の人間中心主義的環境へのかかわり方を批判し、「近代知性の超克」として、日本における環境と人間の不可分の関係を読み解こうとしているのが、ベルク風土学だとしている。また、この論考を進めるにあたり、また、日本の自然と人間文化の関係を体系づけたハルオ・シラネ（注5）の『四季の創造　日本文化と自然観の系譜』にも多くを負っている。（Ⅳ）

先人たちの日本の暮らしの中に見えてくる人と自然との関係の場のまず一つ目は、宇宙のすべてを司（つかさど）る、畏怖すべき自然との直接的関係の場である。二つ目は里地・里山と呼ばれる、生活資材を得るために周りの自然環境に手を加えながら、農を基本に置く暮らし

の場がある。三つ目は仏教文化の一つとして中国から伝わり、都市の生活環境の中に組み立てられた二次的自然としての、[d]いわゆる「庭」と呼ばれる場である。人間と自然との関係の場をこの三つの場として俯瞰的に眺めた視点からあらためて「庭」とは何かを問いたいと思う。

日本の国土は高緯度から低緯度に長く延びた小さな島国であることから生み出される多様な気象、起伏の多い複雑な地形、多様な植生の自然環境であり、そうした自然環境との対応の中で日本人の自然観は育まれてきた。

古代においては、自然は予測困難な[e]キョウイであった。自然は八百万（やおよろず）の神々が司り、人間は地震、津波、洪水、火山の噴火などの災害が起こらぬよう自然を敬い鎮めようとしてきた。そうした神々との対話、交信の場所として、自然のエネルギーが凝縮したような姿が如実に感じ取れる山、巨木、巨石などに聖性を認め祈り奉って来た。原始アニミズム（注6）的とも言い表される、自然との関係の行為であり場であった。

まずその筆頭に挙げられるものに、「磐座（いわくら）」（注7）と呼ばれるものがある。神はある限られたときに自然エネルギーの凝縮の場を神籬（ひもろぎ）（注8）、依（よ）り代（しろ）（注9）として降りてくる。玄界灘（げんかいなだ）の沖にある宗像（むなかた）神社の沖津宮（おきつみや）の巌崖（がんがい）（注10）脇に儀式の場、祈りの場がある。まさに古代が封印されたままのような場所である。

B

奈良の三輪山も山そのものをご神体として、山の奥深くの岩のがれ場のような場所を磐座としてまつっており、入山が制限され、その神々しい気配を今も残す。後に庭園の骨格が石組みで表現されるようになっていくが、このような自然との交信の装置としての意味が含まれる。

[f]これとは対照的に四方をしめ縄で囲んだ白砂を敷き詰めた何もない空間、「斎庭（ゆにわ）」（注11）と呼ばれる祭事の場がある。聖性と政治を「まつりごと」として結びつける場である。後年そこに建築も加わる。京都御所の紫宸殿（ししんでん）とその前の白砂敷きの空間がまさにその姿である。沖縄には御嶽（うたき）と呼ばれる儀式のための何もない場が今も残る。この何もない物事が行われる場、発生する場が、庭が持つもう一つの大きな意味へとつながる。

伊勢（いせ）の神宮は、広大な神宮の森とそこから流れ出る五十鈴川（いすずがわ）の脇の敷地が、まさに聖性と政治が結び付けられた空間となっている。遷宮、御手洗場（みたらしば）など、原初の自然との直接的やり取りが儀式として形作られていく。

古代の墓も宇宙的聖性との交信の場であることに重ねて、[g]ソセンの霊を祭る場、権力のアピールの場であった。堺（さかい）市には土と石を使って高く盛られた日本最大の古墳、仁徳（にんとく）天皇陵がある。巨大な岩を加工することなく組み合わせ作られたものに明日香の石舞台古墳がある。秋田県大湯の環状列石もおそらくは古代の墓であったろうと推測される。直径五〇メートルの円の中にいくつもの大小さまざ

まな円が散在し、その配石はまるで宇宙図のようであり、庭園の石組みのようでもある。

人ははじめに自然の中の聖性を感じる場所を選び、背後にいる神と対話するための場であることを示すため、その場に印だけをつけた。次に自然界と人の居住する地域の境に、自然と対話する装置や、場を人の力で組み立てた。聖性を認める自然との直接的対話を始まりとして、オギュスタン・ベルクの指摘にもあるようにその後自然であることを文化の到達点とみなす日本人独特の思想が育まれてゆく。自然は俗塵(ぞくじん)から人を清めるとの考えも生まれ、野生の自然の中に入っていく行為が修験道(注12)や隠棲(いんせい)者の思想を生むに至る。

ここで西欧世界と大きく違うのは、その場の形状に加工の手をできるだけ加えず、場を示すための最小限の造形だけにとどめられていることである。場が［　C　］であって、人間はそこへのかかわり方を示すだけであるという、環境へのかかわり方であった。

平安時代も後期になると、治水や灌漑(かんがい)の技術が発達して人間がある程度自然を管理できるようになる。畏怖された神は、恵みを得るための土地を守る鎮守の神や農耕の神となり、こうした神々を崇(あが)めながら、人間が自然に手を加えて作られてきたのが「里地・里山」と呼ばれる農山村である。

日本の稲作農業にとっては、西欧世界の小麦農業よりもはるかに多くの豊かな水が必要であり、氾濫の危険のより少ない山裾の少し開けた谷あいや盆地が耕作地として選択され、人々はそこに住み込んできた。狭い谷の一本の水系だけを頼りにその地に住みついた人々は、何代にもわたりその地から恵みを得つづけることができるように、その地の自然を使いツ[h]くすことなく利用し続けるための知恵を育んでゆく。そのために、細やかな地形と気象条件の読みとりがいやおうなく強いられ、その暮らしの営みの景が流域ごとに微妙に異なる日本の農村景観が生み出されてきたのである。治水事業や耕作地の開発では、その地の自然に従いながらの最低限の地形の改変であった。[i]棚田の景はその代表的なものである。また稲作における種籾(たねもみ)まき、田植え、草取り、刈り取りという一連の作業は、自然が持つリズムと人々の暮らしのリズムとを一体化することであった。その知恵が、祭りや季節ごとの風俗習慣となり、厳しい自然と折り合いをつけながら生きる人々の暮らしの姿となってきた。

ここでもう一つハルオ・シラネにより示された重要な視点がある。都市生活者にとって里山がどのようなものであったのか、である。平安時代、民話では里山の生活が人間と自然が親しい関係にある場所として描かれる。また、貴族たちにとって里山は都市社会の日常から逃れることのできる場所と考えられ、「山遊び」「野遊び」の場となり、和歌に詠(うた)われた。さらに和歌の題にもとづいた春の桜、秋の月、冬の雪などを楽しむ季節の娯楽の多くは、江戸時代には、武家や庶民にも受け継がれ大衆化していった。また鎌倉時代、中国から伝わった禅の影響を受けた水墨画には山に住む隠者が描かれ、山里が理想化された場所とされたのである。

今日の里山は使われ方や姿が大きく変化してしまった。明るい雑木林（ぞうきばやし）は人の立ち入れない鬱蒼（うっそう）とした林に変わり、農業生産の場、暮らしの場として存在した里地・里山景観の維持が大変難しくなってきている。自然との共生がモサクされる今日、過去の都市生活者がそそいだ里地・里山への視線はわたしたち都市に住む者に大きな示唆を与える。次の時代の人間の豊かさを実現するための新しい形の暮らしと自然の関係の姿として生まれてくるものがあるはずだと思う。

（『科学と芸術――自然と人間の調和』所収　岡田憲久（おかだのりひさ）「人間と自然の関係の文化「庭」の今」による）

（注）
1　ランドスケープデザイン……都市や公園、広場など、その場の風景や景観を設計・構築すること。
2　川勝平太……政治家・歴史学者・経済学者（一九四八～）。
3　オギュスタン・ベルク……フランスの地理学者（一九四二～）。フランスにおける日本研究の第一人者であり、独自の「風土学」を構築した。
4　デカルト……フランスの哲学者（一五九六～一六五〇）。近代哲学の父と呼ばれ、「われ思う、ゆえに我あり」というテーゼ（命題）が有名。
5　ハルオ・シラネ……アメリカの日本文学研究者（一九五一～）。
6　アニミズム……すべてのものに霊魂が宿っているという考え方。
7　磐座……神が宿るとされる石。
8　神籬……神を迎えるための依り代となるもの。
9　依り代……神が寄りつくもの。
10　巌崖……けわしい崖。
11　斎庭……神をまつるために清めた場所。
12　修験道……山で厳しい修行を行うことで悟りを得ようとする信仰。

問一　空欄 A ・ B に入る語句はなにか。次の1～8のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。ただし、同じ選択肢を二回選ぶことはできない。解答番号は 13 ・ 14 。

1　だから　　2　しかし　　3　なぜなら　　4　もし
5　むしろ　　6　つまり　　7　たしかに　　8　また

問二　本文では次の部分が抜けている。この部分が入るべき箇所は本文中の（Ⅰ）～（Ⅳ）のどこか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 15 。

こうした視点をも参考にしながら、「日本の庭」を日本の環境論へと展開することを試み、庭というものが持つ今日における意味を問いたいと思う。

1　（Ⅰ）　2　（Ⅱ）　3　（Ⅲ）　4　（Ⅳ）

問三　傍線部a「整形式」とあるが、その特徴の説明として正しいものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 16 。

1　人々の生活になじむように風景を人工的に作り上げることを重視し、人間を自然の上位に置く西欧的な思想を強化した。
2　ベルサイユ宮殿の庭に代表される様式で、美の追求のためには自然を損なうことをも是認する西欧の自然観が反映されている。
3　中国や朝鮮半島、日本における自然観とは対照的に、人間が手を加え、整えることで自然を楽しむものである。
4　人間の手で自然への改変を繰り返すことにより農村的自然景観が減少し、のちに自然風景式のデザインへ移行することとなる。

問四　傍線部b・e・g・h・jと同じ漢字を含むものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 17 ～ 21 。

b「ボッカ」
1　シンボクを深める。
2　教会のボクシになる。
3　ドボク工事を行う。
4　事故をボクメツする。

e「キョウイ」
1　キョウフにおののく。
2　人質をキョウハクする。
3　恩恵をキョウジュする。
4　キッキョウを占う。

g「ソセン」
1　仏教のカイソ。
2　ダンスのソシツがある。
3　ソシキを構成する。
4　食べ物をソマツにする。

h「ツくす」
1　センジンを切る。
2　ジンアイの心で接する。
3　復興にジンリョクする。
4　ジンジョウでない事態。

j「モサク」
1　思惑がコウサクする。
2　タイサクを練る。
3　労働者をサクシュする。
4　警察によるソウサクが続く。

問五　傍線部c「相克を解消する」とあるが、ここではどのようにすることか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22 。

1　両者の間の対立から目を背けること。
2　相反する性質を無理なく共存させること。
3　両者に矛盾が生じる前の状態に戻すこと。
4　対立する見方の一方に傾倒すること。

問六　傍線部d「いわゆる「庭」と呼ばれる場」とあるが、それはどのような場か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23 。

1　かつては一部の人々から「庭」と名付けられていた場。
2　他に呼びようがなく、便宜的に「庭」と呼ばれる場。
3　あえて「庭」のかたちに限りなく似せて作られた場。
4　「庭」と言ったときに世間一般で連想されるような場。

問七　傍線部f「これとは対照的に」とあるが、「磐座」と「斎庭」はどのような点で対照的か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 24 。

1　「磐座」は自然にあらかじめ存在するものであるのに対し、「斎庭」は人が作り出した場であるという点。
2　「磐座」は自然を敬い神と対話する場であるのに対し、「斎庭」は自然や神を政治的に利用する場であるという点。
3　「磐座」は人を寄せ付けない場であるのに対し、「斎庭」は人が立ち入るための場であるという点。
4　「磐座」は聖性を感じる場の印として目立ったものがあるのに対し、「斎庭」はなにもないことに聖性を見いだしている点。

問八 空欄 C に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 25 。

1 表
2 源
3 主
4 善

問九 傍線部i「棚田の景はその代表的なものである」とあるが、「棚田」はどのようなものだと筆者は考えているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 26 。

1 人間がその地の恵みを効率的に得られるように、なるべく人の手を加えず自然の形を生かして作られたもの。
2 人間が継続的に恩恵を得られるように、もともとの自然の地形を最大限に利用して開発されたもの。
3 人間の営みを半永久的に支えられるように、地形や気象条件の研究をもとに災害の危険を取り除いたもの。
4 人間の暮らしを根底から支えられるように、自然の持つリズムを人間に都合よく変形したもの。

問一〇 傍線部k「過去の都市生活者がそそいだ里地・里山への視線はわたしたち都市に住む者に大きな示唆を与える」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27 。

1 今日では里山は人間に身近なものではなくなってしまったが、過去の都市生活者が里山を心のよりどころとしてきたという事実は、人間にとって自然が不可欠であることの証左であるということ。
2 今日では里山は人が立ち入れないほどに荒れ果ててしまったが、過去の都市生活者が里山に託してきた思いを読み取ることは、里山をもとの姿によみがえらせるうえで有効な手段であるということ。
3 今日では里山の景観は大きく損なわれてしまったが、過去の都市生活者が里山にどのように心を寄せていたかを知ることは、人間と自然の関係を考えるうえで重要な手がかりになるということ。
4 今日では里山の姿は消失しつつあるが、過去の都市生活者が里山を文化に取り入れ保護してきた歴史には、人間と自然の理想的な関わり方を理解するうえで学ぶべき部分が大いにあるということ。

問題三　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

多文化主義（multiculturalism）は、一九七〇年代初頭、カナダとオーストラリアで国是[注1]として採用され、以後急速に広まることになった。

多文化主義は、一つの言語、文化、民族が三位一体（さんみ）となった、かつての国民国家の統合様式ではなく、複数の言語、文化、民族の共存からなる国民の統合を目指して始まった。

そのため、国ごとに大きな温度差がある。一九七一年にカナダで採用された「二言語・多文化主義政策」をはじめ、オーストラリア、イギリスにおける、移住者への言語教育、あるいはアメリカにおける「アファーマティヴ・アクション[注2]」などはその端的な一例である。

しかし、こうした多文化主義政策は必ずしも成功したとはいえず、他者との間に明白な壁をつくって棲（す）み分けする「文化多元主義」をa<u>ジョ</u>チョウすることにもなった。また多文化主義の強化が、ときとして過剰なまでの「ＰＣ（政治的正しさ）」を招き、とりわけ九〇年代以降、白人多数派から非白人や新たな移民に対して各国でバッ[注3]クラッシュが起きているのも事実である。

こうしたなか、社会において個々人のアイデンティティが対話的に「承認」されることの必要性も説かれているが、そうした議論は、それぞれに固定されたアイデンティティと文化を前提としている場合が多い。また、他者の文化を受容する「寛容さ」には、ネイショ[注4]ンと想像的な関係を結んだ統治的主体が想定されており、現実にはそうした統治的主体が許容できる他者のみが容認されているという指摘もある。冒頭[注5]でふれた介護労働者の国境を越えた移動や、アメリカで外国人スポーツ選手に発行されている非移民ビザは、b<u>こうした状況</u>を示唆しているといえる。

このように、多文化主義は国ごとに多様な試みがなされているが、いずれにせよ、ネイションに対する統治的権力を軸にして展開されてきた。

多文化主義には、一方で国境を越える人の移動を管理する国家との連動性が求められ、他方で国家間の関係を良好に保つことが求められる。そのため国際的な移動が増加する現在、依然として多くの課題を抱え込んでいるといえるだろう。

その一方で、グローバル化によって国境を越えたメディアや文化は、私たちの日常生活のなかにも今やごく普通の風景となってとけ込んでいる。ふと身の回りを見回すと、いつのまにかc<u>多文化な風景</u>がぐっと身近なものになっているのも事実だ。大都市のストリートに軒を並べる多国籍レストランの風景はその端的な一例だろう。

しかし、例えば「エスニック」料理という時、私たちがまず思い浮かべるのは、少なくとも日本料理ではない。かといってマクドナルドのハンバーガーでもなければ、フランス料理でもない。多くの場合、「エスニック」というと、無意識的に欧米以外の国を思い浮かべることが圧倒的に多いのではないだろうか。その理由をさぐってみることは、一見すると「当たり前」な「多文化」の光景がどのような政治的、歴史的、経済的な権力関係のもとに形成されてきたのかをあらためて認識する第一歩になるだろう。

多国籍レストランに代表される多文化主義は、「コスメチック・マルチカルチュラリズム（うわべの多文化主義）」と呼ばれているが、グローバルな資本主義が個々の文化的アイデンティティを並列に扱うことによって再生産を続けているとすれば、「コスメチック・マルチカルチュラリズム」は、むしろ、グローバルな資本主義の理想的な形式として機能しているといえる。なぜなら、そこに登場する「他者」の文化は、ネイションにとって支配・管理可能で、相互に利益を共有できる功利的な関係に基づいている場合が多いからだ。

その一方で、多国籍企業を経営する自律した起業家にとっては、［A］ネイションはそれほど必要とされていないといえるかもしれない。というのも、そのような企業にとっては、本国とは資本主義によって植民地化すべき一つの領域にすぎないからだ。そしてこうしたグローバルな企業は、つねに一国にとらわれないポピュラーなイメージを喚起させながら国を越えて広範な購買層をひきつけているのである。

このように多文化主義について考えるには、各国内、あるいは国家間のみならず、企業とグローバルな資本主義との間の相互補完的な関係も踏まえていく必要がある。

さて、多文化主義をめぐるこうしたいくつもの側面を考えるには、[d]脱植民地化とグローバル化という潮流にあらためて目を向ける必要がある。

［B］英国の場合、第二次世界大戦後の経済成長下に国内の労働力不足が生じ、法的に英国臣民（British Subject）にあたる新英連邦諸国（西インド諸島、インド、パキスタンなど）から多くの移民労働者が流入した。低賃金の労働力は英国にとっても好都合であり、また移民たちも職を求めて渡った「母国」での生活に胸を[e]フクらませていた。しかし法的に市民権を所有する英国臣民であるからといって、文化的に居心地のよい生活が得られるわけではなかった。さらに好景気はいつまでも続くわけではない。景気が悪化したときにまっさきに打撃を受けるのは、こうした移民層である。貧困に苦しむ白人の労働者階級との間の軋轢（あつれき）も絶えず、人種的、文化的闘争が相次ぎ、さらに教育、社会制度面でも多くの問題が生じるようになった。法の境界線と文化の境界線のギャップは多くの[f]キレツをうみ、人種、民族、宗教、性差等の差異の承認をめぐる「アイデンティティの政治」が激化していった。

人種に関していえば、①自分たちは本質的な「黒さ」(注6)を共有しているという本質主義の思考、②その「黒さ」は歴史や政治、社会のなかで人工的に構築されたものであるという反本質主義的な思考、③人種は社会的に構築されたものではあるが、そこにはたえず異種混交を繰り返しながら変化しつつ受け継がれていく身体的な経験や記憶を読み込む反・反本質主義という思考が登場するようになる。そして生物学的な概念を思わせる人種ではなく、歴史的、文化的、政治的に構築されたエスニシティ(注7)という概念が広く用いられるようになっていく。

こうしたなかで、戦後の英国は、状況に応じて移民法を次々と改正していく。一方で、入国時に厳しい制限を課すことが、他方で、定住した国内の移民をどうコントロールするかということが重要な課題となっていく。

だが、移民の第二世代、第三世代が登場するようになると、文学、音楽、映画、アートといった文化の表現は大きく変容していくことになった。それまで文化の生産にアクセスすることのなかった者たちによる文化的実践は、支配的な権力のもとで歴史的に不可視化されてきたさまざまなディアスポラ(注8)的な風景を描き出していっただけでなく、これまで一方的に付されてきたネガティヴなイメージを自分たちの手でポジティヴなものへと刷新し、国境を越えたトランスローカルなネットワークを編み直すことにもつながっていった。毎年八月に行われるノッティングヒル(注9)のカーニバルや、キース・パイパー(注10)、ソニア・ボイス(注11)といった第二世代、あるいは第三世代のブラックアート(注12)の展開は、こうした意味で重要な鍵を握っている。

このように脱植民地化とグローバル化が進行するなかで、「均質」で「単一」な「想像の共同体」としての国民国家観は必然的に問い直されるようになっていった。

最後に触れておきたいのは、こうした脱植民地化とグローバル化のなかで、「文化」の商品化が進んできたこと、「文化」が経済的な富と結びついた資本に転換され、それによって先住民の文化の生産システムの商品化や知的財産の私的所有といった、これまでにない新しい問題が出てきているということだ。

知識や文化の私的所有をめぐるグローバルな拡大は、ソフトウエアの所有権、バイオテクノロジーの特許、あるいはバイオ所有権など、いまや生命体そのものが所有権の対象となっている。知識や情報が私的な所有物と化してしまうと、それらは商品として売買されることになり、たとえ自分たちに必要な情報や、生命に関わる知識で、本来、「共有知」として公的領域に拓(ひら)かれるべきものであったとしても、もはや市場原理を無視してアクセスすることは難しくなってしまう。現在、g こうした動向に対して、国連の世界知的所有権機構（ＷＩＰＯ）の創設など、国際的な法整備も進められているが、アメリカの法学者ローレンス・レッシグ(注13)が「クリエイティブ・コモ

ンズ」としてテイショウ[h]するような、知的所有権や著作権といった法的な問題を回避する知的財産権の拓かれたあり方は、グローバルな政治経済のなかで私たちが目の当たりにしている文化の資本主義的所有に抗する有益なヒントを与えてくれるだろう。

そもそも多文化主義と多文化なるものは別物である。多文化主義そのものが誰かの多文化主義であっては元も子もない[i]。つまり、個々の文化の間のすでに与えられた関係を探るのではなく、いまだ与えられていない関係を探ることこそ、[j]多文化主義を考える上で求められていることではないだろうか。

目に見える他者性と目に見えない他者性、書類上の法的な境界線と文化の境界線、近代的な国民国家観のジュバク[k]を目のあたりにするなかにあって、私たち自身が、自らの身体に幾重にも書き込まれた境界線を、もう一度引き直し、他なるものとともに縫い直していく作業こそ、今後、多文化な世界を拓き、練り直していくための第一歩になるだろう。

（『よくわかるメディア・スタディーズ』所収　清水知子「グローバル化と多文化主義の現在」による）

（注）
1　国是……国家としての方針。
2　アファーマティヴ・アクション……人種や肌の色、宗教、性別、出身国などを理由とした差別を解消するために、救済措置をとること。
3　バックラッシュ……ある流れに対する反動や揺り戻しを意味する言葉で、ここでは、少数民族差別撤廃に対して、白人が反発したり反感をもったりする傾向やそのような主張・考えのことを言う。
4　ネイションと想像的な関係を結んだ統治的主体……ネイションに対して、その統治的な決定に関与する権利を有しているという感覚をもつ主体のこと。ガッサン・ハージ『ホワイト・ネイション　ネオ・ナショナリズム批判』による。
5　冒頭でふれた介護労働者の国境を越えた移動……引用箇所より前で、インドネシアから介護労働者として来日した人たちについて述べている。
6　黒さ……ここでは、肌の黒さなど、ある人種とみなされる根拠となる特徴のことを指す。ポール・ギルロイ『ブラック・アトランティック　近代性と二重意識』による。
7　エスニシティ……血縁、言語、宗教、生活習慣、文化などを通じて他の集団とは区別された独自の文化的アイデンティティを共有する集団。
8　ディアスポラ……故郷を離れて暮らす人やコミュニティを指す用語。
9　ノッティングヒルのカーニバル……カリブ諸島からの移民たちの祭りとして始まった、イギリス・ロンドンのノッティングヒルで行われるカーニバル。
10　キース・パイパー……イギリスのアーティスト（一九六〇～）。一九七九年にＢＬＫアート・グループを設立し、ブラックアートが発展する契機となった。

11 ソニア・ボイス……イギリスのアーティスト（一九六二〜）。芸術を通じて移民への差別と闘う「ブラック・アーツ・ムーブメント」に参加した。

12 ブラックアート……黒人文化や歴史、経験などを中心に表現し、社会的・政治的メッセージを伝える芸術の総称。

13 ローレンス・レッシグ……アメリカの法学者（一九六一〜）。著作者が定めた条件のもとで一定の自由を与える新しい著作権の形を広める「クリエイティブ・コモンズ」という活動をしている。

問一 傍線部a・e・f・h・kと同じ漢字を含むものはどれか。次の1〜4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 28 〜 32 。

a「ジョチョウ」

1 ジョバンから有利に進める。
2 制限をカイジョする。
3 ジョソウをつけて跳ぶ。
4 トツジョ姿を現した。

e「フクらませて」

1 巧みな技にダツボウする。
2 タボウな日々を送る。
3 インボウ論をとなえる。
4 ボウダイな数になる。

f「キレツ」

1 大きなハレツ音が鳴る。
2 商品をチンレツする。
3 レッカのごとく怒る。
4 レットウ感を抱く。

h「テイショウ」
1　主役にショウメイを当てる。
2　シュッショウ届を出す。
3　論よりショウコ。
4　大声でネッショウする。

k「ジュバク」
1　シンジュのネックレス。
2　魔法のジュモン。
3　願いがジョウジュする。
4　チョウジュのお祝いをする。

問二　傍線部b「こうした状況」とあるが、どのような状況か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 33 。

1　多文化主義が掲げられているが、実態はネイションを統治する主体が受け入れることを認めた相手だけが容認されている状況。
2　多文化主義のもと他者の文化を認め共存していくために、ネイションの統治的主体であるという意識が必要とされている状況。
3　異なる文化を受け入れようとする動きは、ネイションを統治する主体にとってはあくまで施策の一つにすぎないという状況。
4　他者の文化を受容することが重要視される一方で、ネイションの統治的主体という役割からは逃れられないという状況。

問三　傍線部c「多文化な風景」とあるが、筆者はこのことを取り上げてどのようなことをいおうとしているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 34 。

1　これまで国境によって隔てられていたさまざまな文化が国境をまたいで一体となり、現代社会に浸透しつつあるということ。
2　グローバル化にともなうメディアや文化の多様化が、政治、歴史、経済三者の力関係に大きな影響を与えてきたということ。
3　日ごろ「多文化」として人々に受け入れられている事物が、実は統治的な操作によって生み出されたものであるということ。
4　「エスニック」という言葉が欧米以外の国を想起させるように、「多文化」社会には文化的な格差が潜んでいるということ。

問四 空欄 A ・ B に入る語句はなにか。次の1～8のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。ただし、同じ選択肢を二回選ぶことはできない。解答番号は 35 ・ 36 。

1 つまり　2 たとえ　3 あるいは　4 もはや
5 まるで　6 だから　7 例えば　8 なぜなら

問五 傍線部d「脱植民地化とグローバル化という潮流」とあるが、このような「潮流」を話題に取り上げる筆者の意図はどのようなものか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 37 。

1 旧植民地から流入した移民が、国家の制御を離れて独自に多様化し、現地の文化と折り合いをつけつつ発展していったことを示している。
2 多文化主義が単に異なる文化の共存を意味するだけでなく、歴史的、社会的な文脈の中で複雑に形成されるものであることを示している。
3 国家の政策のもと法的な手続きによって進行する脱植民地化と、自発的な広がりを見せるグローバル化は両立しえないことを示している。
4 文化による表現は国家の規制を逃れて大きく変容し、マイノリティが抱える社会的なメッセージを伝える手段となったことを示している。

問六 傍線部g「こうした動向」とあるが、どのような動向か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 38 。

1 必要な情報や生命に関わる知識が「共有知」として公開されていること。
2 グローバル化にともなって知識や文化の私的な所有化が進んでいること。
3 知識や情報の市場化を解決すべく国際的な法整備が検討されていること。
4 文化の商品化にともない脱植民地化やグローバル化が進行していること。

問七　傍線部i「元も子もない」とあるが、ここではどのような意味か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39 。

1　すべてが無意味になる
2　区別が曖昧になる
3　なにが正しいか分からない
4　興がそがれてしまう

問八　傍線部j「多文化主義を考える上で求められていること」とあるが、どのようなことが求められているのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 40 。

1　法的な境界線と文化の境界線の距離を可能な限り近づけ、よりよい多文化社会を築いていくこと。
2　人びとの身体上に刻まれた無数の境界線を一つずつ確認し、その意味について熟考していくこと。
3　文化と文化、人と人との間に存在する自明の境界線を問い直し、新たな関係性を探っていくこと。
4　すでに存在する関係性をもとに新しい関係性の構築を目指し、社会をより多様化させていくこと。